

釜石まつり

10月18日～20日【市内各所】

秋の風物詩、釜石まつりが開催されました。19日に予定されていた曳き船まつりは雨のため中止となりましたが、20日は晴れ渡る秋空の下、尾崎神社と釜石製鉄所山神社の市内神輿渡御が行われました。今回は修復の済んだ六角神輿が沿道の見物客への初お披露目。おまつり広場では練り歩く約1.5トンにもなる巨大できらびやかな神輿、神楽や虎舞、鹿踊りなど郷土芸能の披露に歓声が上がりました。



太鼓と笛の音に合わせて踊りを披露するミスさんさ踊り



観客も一緒に盛り上がった浅草のサンパチーム



神事後、六角神輿が担ぎ手によって尾崎神社から出てきます

橋野鉄鉱山稼働時代の森づくり育樹祭

10月22日【橋野鉄鉱山三番高炉東側】

橋野鉄鉱山が稼働していた160年前の森を、100年以上の年月をかけて復元するプロジェクト。当時の製鉄を支えていたものの一つに、橋野高炉跡周辺の豊かな森林があります。小雨の降るあいにくの天気の中、林業関係者や観光ボランティア、地元住民など約70人が枝打ちや除伐などに汗を流しました。三陸中部森林管理署長の小笠原孝さんは「植生の回復を目指して、長い年月がかかるが手入れをしていきたい」と取り組みの継続に意欲を示しました。



参加者は3班に分かれて森林の中へ。1時間ほどで作業は終了しました



昭和8年の昭和三陸大津波の記念碑について説明を受ける参加者（唐丹町：盛岩寺）

文化財なんでも体感事業『平田・唐丹めぐり』

10月31日【平田、唐丹地区】

市内の文化財を活用し、郷土の歴史への理解、文化財愛護思想の高揚を図ることを目的に開催。昨年の甲子町に続き、今年は「平田・唐丹地区」を巡りました。昭和8年の津波記念碑や天照御祖神社の常龍山碑などが建立された経緯について説明を受けた参加者は、その当時の様子を思い浮かべながら聞き入りました。最後に訪れた唐丹町大石の屋形遺跡では、発掘された縄文土器や石器などに直接触れる貴重な体験ができました。屋形遺跡は、国指定史跡を目指し今後も調査が続けられます。



日本の歌曲をメドレー形式で歌い上げる小山さん



感謝状を手にする小山ゆうこさんとファゴット奏者で夫の昭雄さん

小山ゆうこ ～メゾ・ソプラノの魅力～

10月31日【釜石市民ホールTETTO】

ドイツ・トロッシゲン市在住で、釜石市出身の小山ゆうこさんのコンサートが開かれました。小山さんは平成25年12月から釜石応援大使を務め、ドイツでの釜石復興チャリティーコンサートなどを成功させてきました。コンサートに先立ち、被災者への惜しみない支援とその歌声で市民に勇気と感動を与えた功績を称え、市長から感謝状が贈られました。



折居さん（写真中央）は自身が釜石に移住した経験などを生かし、移住を考えている人の相談も受け付けます

新しい地域おこし協力隊就任

10月1日【市長室】

市は空き家利活用や移住の相談窓口業務に取り組む、北上市出身の折居ゆかさんを地域おこし協力隊員に任命しました。折居さんは非常勤職員として市総合政策課に所属し、空き家バンクに登録する物件の情報収集に取り組む他、物件と利用者のマッチングなどを行います。11月現在、市の空き家バンクには9件の登録があり、「売りたい・貸したい」空き家所有者や、「買いたい・借りたい」利用希望者の問い合わせ（市総合政策課 ☎27-8413）をお待ちしています。

第45回釜石健康マラソン大会

10月5日【釜石市球技場】

10月の体育の日を記念し、健康づくりのきっかけや生涯スポーツの推進を図ることを目的に開催。秋晴れの絶好のコンディションの中、幼児から高齢者まで約300人が元気にコースを走り抜きました。リレーの部は、スポーツ少年団や職場、父母会がそれぞれチームを結成し出場。大接戦の展開に会場一体で声援を送り、盛り上がりました。



ふれあい・親子の部の参加者、ゴールを目指し必死に走り抜きました



収穫したもち米は、公民館の事業で使われる他、参加した皆さんに配られる予定です

稲刈り体験～お米を作ろう

10月5日【唐丹町川目】

「とうに寺子屋教室」では、地域の生活・文化・自然などについて体験学習を行っています。参加者が5月に自らの手で植えた苗は、黄金色の穂を付けるまでに成長。唐丹公民館と地域協同研究を行っている県立大学の学生も駆け付け、地元の皆さんと和気あいあいと作業をしました。参加した川原悠翔さん（唐丹小6年）は「田植えも参加した。稲を全部刈ったときのすっきりした感じが楽しい」と微笑みました。

太平洋津波博物館（PTM）訪問視察事業報告会

10月5日【いのちをつなぐ未来館】

東日本大震災の教訓と復興の記録を後世に継承するため、市の特命大使の任命を受けた市内中学生5人が9月3日にハワイ州の太平洋津波博物館を視察しました。将来的な相互協力を求める釜石市長からの親書を館長に手渡した他、震災で両町から流出したと思われる視線誘導標の存在も確認。「館長から『連携を取って防災について取り組んでいきたい』と前向きなコメントを得られた」との報告もあり、これからの交流に期待が高まります。



PTMには「世界中の津波被災状況が書かれているのが印象的だった」「防災について目を向けていきたい」などと報告した5人



菊池さん（写真中央）は「震災のときは『地域の人』に助けられた。今度は私が『地域の人』になって、誰かを助けられるようになりたい」と願いました

3.11を「大切な人を想う日」に

10月6日【釜石市民ホールTETTO】

釜石でラグビーワールドカップを開催する意義の一つとして挙げられる東日本大震災の伝承。大会期間中、ファンゾーンとなっている市民ホールで釜石あの日あの時甚句の披露や特別展、震災伝承に携わる3人を招いたトークショーが開かれました。陸前高田市で津波到達点に桜を植樹するNPO桜ライン311代表の岡本翔馬さん、震災犠牲者の遺体を復元し納棺した笹原留似子さん、いのちをつなぐ未来館に勤務する菊池のどかさんが当時の思いや、今後の伝承の在り方について意見を交わしました。